

サステナブルスケール× ヤママップ×九州大学による 共同記者会見を開催しました!

2023年4月の
記事はこちら



サステナブルスケール平田社長(福岡銀行常務執行役員)



左から平田社長、YAMAP春山社長、九州大学都市研究センター馬奈木センター長

FFG傘下のサステナブルスケールは2023年4月19日、ワーキング・イベントスペース「TITAP」において、国内トップシエアの登山者向けアプリを提供するヤママップ、九州大学都市研究センターと共同で記者会見を行い、協業プロジェクト「人と自然のウェルビーイングラボ〜人と自然がともに健康になる世界へ〜」の研究成果を発表しました。

今回のプロジェクトは、サステナブルスケールにおける「企業のサステナビリティ(非財務)活動」評価(インパクト評価)プロジェクトの第一弾となります。

2022年4月に九州大学都市研究センター(主幹:馬奈木俊介センター長)とプロジェクトチームを組成、九州大学都市研究セン

ターは主に学術論文と先行研究の調査および評価・分析実務を担当、サステナブルスケールはプロジェクトマネージャーとして全体運営のマネジメントとともに、評価書の作成を担いました。

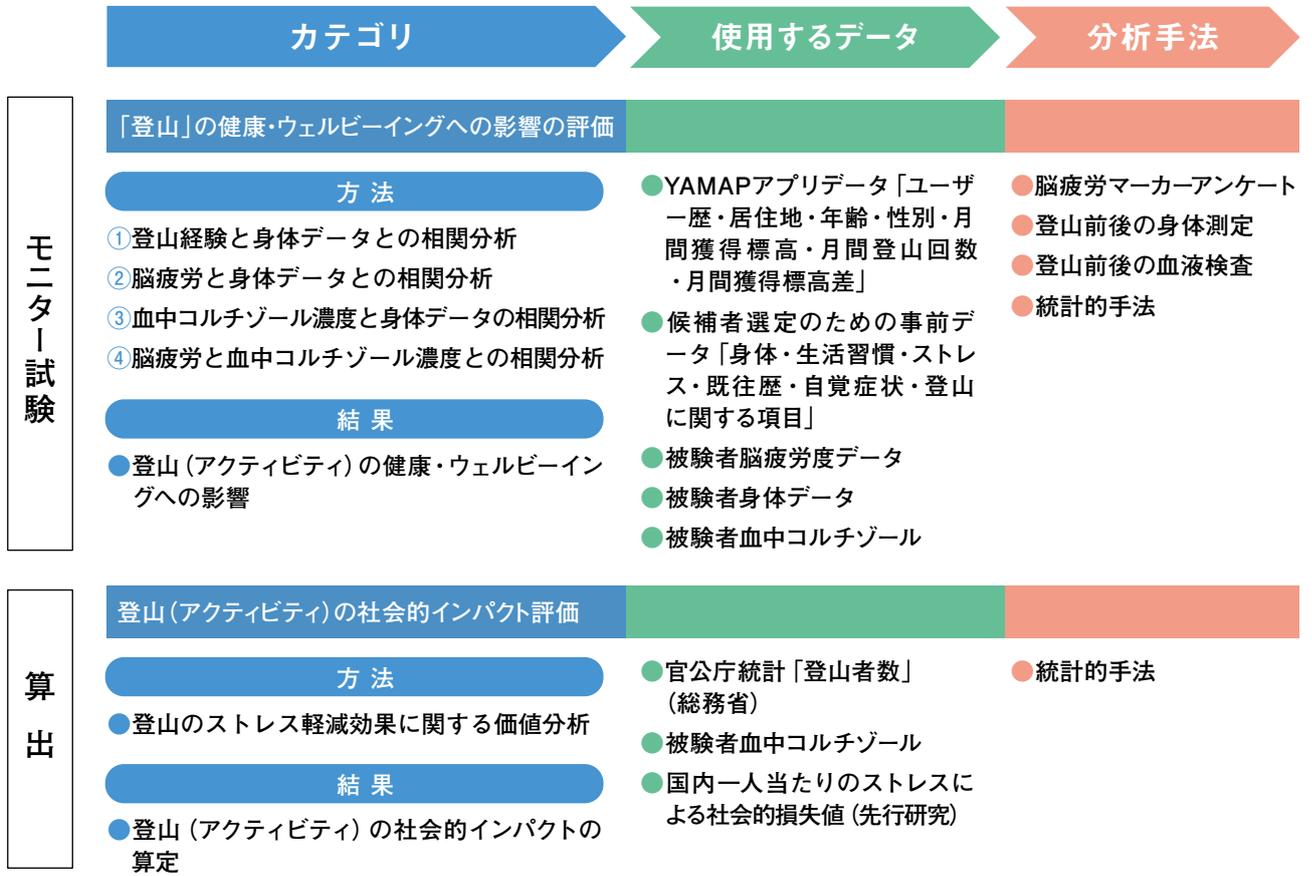
評価スコープとして、自然にフォーカスした「自然資本分析」、人の健康にフォーカスした「人的資本分析」の2軸とし、それぞれの社会的インパクトを可視化することで、登山の自然と健康への影響を評価しました。

「自然資本分析」については、登山者人口の推移とヤママップの取り組みとの因果関係を分析し、登山者人口の増加または維持に対するヤママップの貢献度を検証しました。またヤママップの植林・山道整備といった取り組みについて、

自然環境に対する社会的インパクトの算出を図りました。

「人的資本分析」については、登山アプリ「YAMAP」ユーザー他計46名による登山実証実験を2度にわたって行い、登山前後の生体データを取得、既存の学術論文やデータをも

人的資本分析における研究デザイン



とに、登山の「健康・ウェルビーイング」に対する影響や効果を医学的エビデンスに基づき分析・検証しました。

登山実証実験の参加者を「登山者群」、「非登山者群」に分け、普段の登山が及ぼす健康効果を測定したところ、「脳疲労」の低いグループには登山者群が多い傾向があり、普段からのエクササイズや運動ではとれない脳疲労を、標高500m以上の山で月1回以上の登山習慣が解消する可能性を示しました。

更に、参加者から採取した血中コルチゾールの分布から年間経済効果を概算した結果、1人あたりのインパクト価値(＝経済効果・ポテンシャル)は年間約6万円と算定されました。2021年の日本全体での登山者数は8,614千人であることから、日本における登山のインパクト価値には、年間約5,167億円の効果があると結論付けました。

今後もサステナブルスケールは、SDGs評価における新しいものさしにより、地域企業の様々な非財務データを測ることを通じて、「持続可能な世界が実現すること」「持続可能な未来を創っていくこと」を目指してまいります。